



左手の袖から器具 下パネル横付近に当て 強制的にAT突入

前号の最後に「相次いで発生した謎の電磁波センサーの発報事案が新たなゴト手口の始まりでないことを願うばかりです」と書きましたが、残念ながら私の願いは叶いませんでした。

11月初旬から関東及び関西方面で、サミー「パチスロ化物物語」において強い電磁波を使用することにより強制的にATに突入させる

手口の被害が相次いで発生いたしました。

ある店舗で発生したこの手口のゴト発生状況は次のような状況でした。

ゴトグループ5人が別々の出入口から時間差で入店してきました。この5人の役割分担は、実行役1人、キャッチ役3人、打ち子1人という役割分担がされており、最初に実行役が「パチスロ化物物語」に着席し、その後、隣の台には打ち子が着席しました。

実行役は着席後、左手の袖の中から隠していたゴト器具(アンテナ?)を引き出し、防犯カメラの死角を作るように右手でPOPを持ちながら、遊技台の左側面(下パネル横付近)に2〜3分程度左手を当てていました。



左手を当てている 2〜3分程度の間 枠ランプが激しく点滅

この左手を当てている2〜3分程度の時間中は、被害台の枠ランプが激しく点滅する状況が防犯カメラの録画映像に残されており、その後、実行役は左手の袖から出

していたゴト器具(アンテナ?)を袖の中に隠してからお店を退店して行きました。

実行役が被害台から離れると間髪いれずに、打ち子が被害台に移動して遊技を開始していました。実行役が電磁波を飛ばしていたと思われるタイミングで、キャッチ役の3人は被害台のあるエリアからちよつと離れた場所です。ホールスタッフに遊技方法の説明やタバコの交換や購入を依頼するなどして、ホールスタッフが犯行現場に近づけないようにしていたことも判明しました。

出方が異常で気になる台があるというインカム連絡から、防犯カメラの録画映像チェックを実施してゴト被害に気が付いた店舗側は、既に5千枚以上のメダルを出されていましたが、打ち子に対しデータに不審な点があるので遊技中止と交換拒否を伝えたところ、この打ち子は素直に退店して実被害無く済んだとのことでした。被害店舗からの情報では、実行役が左手を筐体に当てたところ被害台の電源が落ちて、その後電源は自動復旧して、直後にATに入っているとのことでした。

ゴトに勝つ 高石隆一

40

「化け物語」で心配が現実
強力電波を過激に巧みに

失敗すると「E1」表示 遊技続行不可能になる ソフトの深刻なエラー

このケースとは違うパターンで数多く報告事例があるのが、クレジット表示窓に「E1」というエラー表示が残されたままで放置されていたという被害状況です。この「E1」というエラーはRAMのソフト的なエラーで、この状態になると設定変更でリセットしない限り遊技続行は不可能になるという深刻なエラーです。

この「E1」エラーは、ゴトに失敗したのみに発生するようで、過去には山佐「パチスロ鉄拳2nd」や「パチスロ鉄拳デビルVer」でも飛ばした電磁波がホッパーなどの狙っていない電子機器に影響を与えたことにより、「E1-2」や「E1-4」のエラーが発生するという事例がありました。まさにこれと同じ状況だと思われます。

この「E1」エラーが表示されたまま実行役が逃走して放置された被害台は、液晶上の獲得枚数が0枚（ベルを一度も獲得していない）という表示になっているにも

かわからず「超倍倍チャンス」や「倍倍チャンス」の状態になっていたりです。

「超倍倍チャンス」で 獲得枚数0のまま 原因不明が気になる

倍倍チャンスとは、AT中にレア小役が成立した際に抽選で突入する差枚数上乘せゾーンのことです。倍倍チャンス中は、全成立役にて「配当」と「倍率」のアップ抽選が行われて、最終的に「配当」×「倍率」で算出された数値を差枚数として上乘せされるというものです。

この「倍倍チャンス」中にレア小役が成立すれば、さらに上乘せ性能が高い「超倍倍チャンス」への昇格や0ゲーム連で倍率が増加する「エクストラサービス」に突入する可能性があります。

このようにサミー「パチスロ化物語」の「倍倍チャンス」は、ATに突入後に「倍倍チャンス」そして「超倍倍チャンス」と消化ゲーム数を重ねて突入するというゲーム性なので、「超倍倍チャンス」になっているのに獲得枚数が0枚という



状態は、現実問題として普通ではありえない状態であるといえます。

また、「E1」エラーが発生して「超倍倍チャンス」になって放置されていた台では、データランプもホールコンピュータのデータも共に特賞回数が0のままだったそうです。この現象は、特賞の情報が上がる前にエラーが発生したことによるものなのか、それともゴトによる不具合で特賞の情報が上がっていないのか定かではありませんが気になる現象です。

セルではなく電磁波で 偽のレア小役を 強制送信している

ゴト器具が押収されて検証しなければ、まだまだ不明な点が多いのですが、これまでの状況から推

測する手口は、波形電波による偽のレア小役の強制送信だと思われます。AT機やART機を狙ったセルゴトの場合は、メイン基板とサブ基板を繋いでいるサブハーネスやコネクタなどの通信ラインにセルを挿して、そのセルを介して偽のレア小役情報を強制的に送り込むというものでしたが、今回の手口はセルではなく、電磁波を使って通信ラインに偽のレア小役の情報（波形電波）を送り込んでいるものと思われます。

犯行時の状況として、遊技台の左側面（下パネル横付近）に左手を当てている時間中に被害台の枠ランプが激しく点滅する状況が防犯カメラの録画映像に残されておりましたが、これはサブ基板に偽のレア小役の情報が大量に送り込まれたことよって発生した現象です。

被害が発生したとき 隣接のサンドなどに エラー発生時の「強力電波」

そして、多くの被害ホールで確認されている不思議な現象として、「パチスロ化物語」での電磁波ゴトの被害が発生した時に、隣接しているメダルサンドや他の機械でエラーが発生するというものがあります。

左手を当てている遊技台だけでなく、その近接しているメダルサンドや他の機器でまでエラーが発生するということは、この手口で使用されているゴト器具から相当強力な電磁波が照射されているものと推測されます。被害台の電源は自動復旧していると前述しましたが、メダルサンドなどのエラーはホールスタッフが解除しなければなりません。「パチスロ化物語」に隣接した設備機器で、謎のエラーが発生した場合には注意が必要です。

いずれも被害事例からの状況証拠による推測部分が多く、本ゴト手口の全容ならびにゴト師が使用している電磁波発信機の性能など、まだまだ不明な部分もありますが、

不審な電源のオン／オフや不審な人物（かばんを所持している人物、不自然に厚着の人物、腕や腰、胸周り等が不自然に膨らんでいる人物）の遊技、見慣れないお客様の液晶上の異常な残り獲得可能枚数表示や異常な出玉を意識してのコース巡回を行い、少しでも違和感があったら、防犯カメラの録画映像をチェックするようお願いいたします。

電磁波センサー設置 有効手段だが課題も メンテナンスと対応確立を

また、当該遊技機付近に『電磁波ゴト警戒中!!』『データ異常を確認した場合に交換をお断りする場合がございます』などといった当ゴトを警戒している旨を記載したPOPを掲示することはゴト師を威嚇する目的だけでなく、ホールスタッフが目届かない場所での犯行をお客様が発見して通報してくれる効果も期待出来ます。

電磁波ゴトの場合、電磁波自体が目に見えない為に発見が非常に困難であるので、電磁波ゴト対策に万全を期するために「目に見えない電磁波を可視化してゴトを早

期に察知する」「呼び出しランプの異常発報によってゴト師を逃走させる」という目的として電磁波センサーを設置する店舗が増えております。

ただ、電磁波センサーを設置しているけど、正常に作動していないなどのメンテナンス不足だったり、異常発報時の対応方法が確立されていないかつたりするケースも散見されます。

高い費用をかけて設置した対策部品なので、有効活用するためにも、定期的なメンテナンスの実施とゴト事案発生の対応方法の見直し、そして、いざという時のためにロープレなどのシミュレーショントレーニングで、万全な対応ができるように練習しておくことをお勧めいたします。

また、11月15日時点では、波形電波による電磁波ゴトの被害はサミー「パチスロ化物語」でのみ確認されておりませんが、いままでのパターンだと同メーカーの機種に波及するという王道パターンがあるので、今後は他のサミー系のAT/ART機でも波形電波による電磁波ゴトの被害が発生するおそれがありますので、あわせて注意

警戒をお願いいたします。

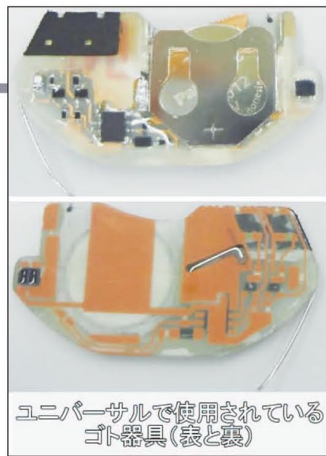
今回のクレマンゴトは アナログ方式だが 被害機種拡大の恐れ

昨年までは「ジャグラーシリーズ」を中心に被害が多発していたクレジット上げゴトの被害が、今年はクレジット上げゴトに使用するゴト器具の多彩化に伴って、被害メーカーが拡散して多数のメーカーのパチスロ機でクレジット上げゴトの被害が発生しました。

そして、今後もその被害メーカーは増え続けることが予想されております。10月に新たに被害が確認されたのが、藤商事「パチスロRAVE」ですが、基本的に藤商事製のスロットは今回被害に遭った「パチスロRAVE」と同様のセレクタが使用されていることから、今後「ゲゲゲの鬼太郎」ブランド「鬼太郎の野望」や「リングウ呪いの7日間」などでも同様のクレジット上げゴトの被害が波及する恐れがあります。

今回のクレジット上げゴトに使用されたゴト器具は、ユニバーサル系のクレジット上げゴトに使用

されたゴト器具と大きさや仕組みなどがとても似ているものでした。ユニバーサル系のクレジット上げゴトの器具は、ボタン電池の電力を使用して赤外線でセレクタのメダル通過センサーを誤認識させるというデジタル方式でした。しかし、決定的に違うのが、今回の藤商事のパチスロで使用されたゴト器具は、メダル投入口から挿入されたゴト器具がすっぽりとセレクタ内に収まった状態になり後から投入されたメダルがゴト器具にぶつかる勢いでスイッチが入るとこ



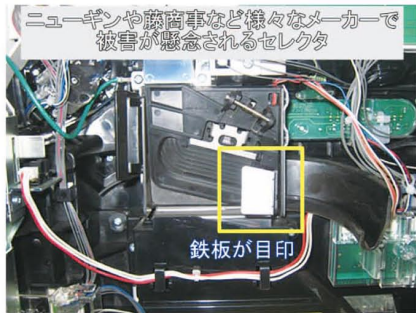
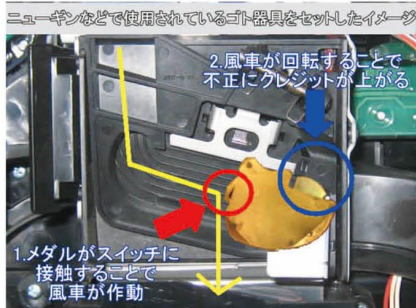
ろまではユニバーサル系と一緒に組み合わせますが、スイッチによりバ

ネの力で先端の金属片が風車状に回転してメダル通過センサーを誤認識させるというアナログ方式の仕組みになっていました。

メダルセレクタの性能のスキを狙った50枚状態でのゴト

ある店舗では、セレクタエラーが発生した状態で遊技者がいなかった台を発見したホールスタッフが、不審に思っただけで当該台のセレクタの点検を実施したところ、セレクタ内に引っかかって残されたクレジット上げのゴト器具を発見しました。その発見したゴト器具を使用して手口を検証したところ、メーカーがゴト対策として組んでいたプログラムが突破されていることが判明したのです。

藤商事のパチスロのメダルセレ



クタには、異物センサーが取り付けられており、その異物センサーを1度通過させた状態で、連続して5枚以上のクレジットが上がった場合には、エラーが発生するようプログラムされており。

そのために、クレジットが0枚もしくは50枚以下の状態で、このクレジット上げのゴト器具を使用した場合は、1度に5枚以上のクレジットが上がることで多く、そのほとんどでセレクタエラーが発生するということが判明しました。しかし、クレジットが満タンの

50枚の状態でのゴト器具を使用した時には、ゴト器具の風車が何回転したとしてもセレクタエラーは発生せずに、3枚BETがされて不正に遊技ができることも判明しました。

ゴト器具をうまく回収 藤商事機だけでなく ニューギン機も注意を

ちなみにスイッチを入れるために投入されたメダルは、スタートレバーの作動のタイミングで下皿に落ちてくるので、1枚のメダルの消費も無く不正に遊技すること

ができ、メダル返却ボタンを押すとゴト器具は下皿に落ちてきて、簡単にゴト器具も回収することが可能です。

しかし、通常時にゴト器具を回収するとセレクタエラーが発生することもあるので、実際にはリール回転中にメダル返却ボタンを押して回収するなどしてエラーの発生率を低くしていると思われます。

藤商事のパチスロ機と同様のメダルセレクタを使っているニューギンのパチスロ機でも、この手口によるクレジット上げゴトが多発しておりますので、ニューギン「戦国パチスロ花の慶次」これより我ら修羅に入る」パチスロサムライチャンプルー流転輪廻「グラップライ刃牙」最大トーナメント編」など、ニューギン製スロット全般でもご注意ください。よろしくお願いいたします。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち
警備会社の指導員、セキユリティー会社を
2003年、有会社社ジャパンセキユリ
イサービス設立し代表取締役。札幌方面
遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、
札幌遊技業支配人会の顧問を務める。か
わら、パチンコ産業のセミナー講師を数多く
務める。北海道警察本部の捜査にも協力し
ている。「二期会」が座右の銘。